

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270700222		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム にこにこプラザみさわ		
所在地	青森県三沢市松園町3丁目2番1号		
自己評価作成日	平成30年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成30年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内のゴミ拾いや七夕祭り見学、避難訓練を実施する等、地域住民と一緒に関わる機会を設けることで、地域に根付いた施設づくりを行っている。 認知症施設として見学に対応しているほか、入居後に入居者様らしく過ごせるよう、ご家族様から生活歴等の情報を収集し、大切に受け入れ、全職員で共有している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室内は天井が高く、広い天窓から差し込む光で明るく、清潔感があり、利用者が安心して過ごせるような環境づくりを行っている。 居室を利用者個々の大切な空間と捉え、清掃等で入出する際も必ずな声がけを行い、承諾を得た上で行っているほか、利用者に対する職員の声がけや配慮は丁寧であり、職員の暖かな見守りで家庭的な空間を提供している。 また、食事は個々の嗜好を尊重しており、食欲の喜びを大切にしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設では当月の目標を掲げ、全職員で唱和している。	職員は地域密着型サービスの根本を理解している。企業理念をホームの理念と捉え、事務室の見える場所に掲示し、日々の引継ぎ時等に唱和しており、理念の共有とさらなる理解を図りながら、利用者へのサービス提供に反映している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民と交流を図っているほか、施設の役割や日常生活に活かせる援助方法、運営方針等を地域に発信している。	町内会に加入し、清掃活動・七夕・秋祭り等の行事にも参加して交流を図っているほか、ホームの行事を開催することで、地域住民の理解を深められるように努めている。また、地域の保育園や米軍基地からの訪問による交流等もあり、利用者の楽しみとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市中心街にあり、利便性も良いため、面会に行きやすい環境にあり、知人の方々の面会が多い。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議や行事において、認知症施設についてお伝えしている。	運営推進会議は偶数月に開催しており、ホームの行事や防災訓練の報告のほか、メンバーから質問や助言をもらい、様々な立場の方の意見を活かすことができる機会となっている。また、会議で出された意見については、職員へ回覧をし、共有を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議への参加や居宅支援事業所との情報交換から、入居申し込みへと展開している。	運営推進会議に市担当課職員が毎回参加し、ホームの運営に関する助言や情報提供等をいただいている。常に相談できる協力体制があり、連携しながら日々のホーム運営やサービスの質の向上に繋げている。また、欠席の場合には、会議内容を報告する体制を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず行う場合は、コールマットや介護ロボットを代替えとして用い、ご家族様に説明を行い、同意を得ている。	身体拘束について実施しない方針であり、勉強会後に小テストを実施する等、工夫しながら職員の理解を深める取り組みを行っている。また、介護ロボットや低床ベッド等を導入し、利用者毎に必要性を検討した上で配置している。介護ロボットの観察データは、事務室内のモニターで管理・データ化して確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強して、虐待を見逃すことがないように注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行い、市担当課への相談や助言をいただきながら、制度を活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、退居等の理由についても時間をかけて説明し、契約締結時は、さらに不明点があるか確認している。また、入居後は問い合わせに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約や入居後の生活での意見等について、問い合わせの際には、入居者様やご家族様を尊重して対応している。	入口に「声の箱（意見箱）」を設置し、誰もが自由に意見や要望を伝えられるような環境づくりを行っている。また、家族の面会時には、些細な事でも必ず報告し、意見や要望がないか確認をしている。出された意見等は、迅速に検討し、対応するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方針に連動する目標を全職員で決め、グループホーム会議やユニット会議で検討し、取り組んでいる。	職員会議は、グループホーム会議とユニット会議で構成され、月1回定期的に開催している。会議で出された意見は大切にしており、ホームの運営に反映し、サービスの向上に努めている。また、会議録は回覧し、職員間で共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内外の勉強会や研修会に参加して、後日、伝達講習を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望を考慮しながら、研修を受講している。参加後は伝達講習で全職員に周知し、発表力を築けるように育成の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加して、他施設・団体と交流することで連携を図り、知識向上と自己研鑽に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談で、入居者様やご家族様から相談や不安等があった場合には、迅速に解決できるよう、職員と管理者で情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後にご家族様が困る事等があった場合には、迅速に改善できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居段階で様々な不安や悩みを抱えることが無いように、声掛けや情報交換をすることで、改善に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に相手の立場に置き換えることで、共に楽しく過ごせる環境となるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様やご家族様の思いを大切にして、可能な限り入居者様を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様とご家族様、関係者と情報を共有し、面会や外出支援等で関係維持に努めている。	友人や知人等は、利用者が生活する上での大切な生きがいと捉え、馴染みの関係が途切れないよう、面会は自由に受け入れている。入居時のアセスメントで、家族等から馴染みの関係(病院・美容室等)や利用者、家族の意向を聞き取り、暮らしの情報(私の暮らし方シート)にまとめ、介護計画の作成に活かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の支援の中で入居者様を観察をすることで、トラブルを防ぎ、皆で笑える環境できるように職員が仲介し、コミュニケーションに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や入院となっても、情報提供等が必要な場合には、了解を得て行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望、意向を把握するように、職員間で情報を共有している。また、必要に応じて、ご家族様より情報を収集して、個々の生活歴を大切にしている。	利用者を人生の先輩と捉え、尊重して接している。職員は日々、傾聴や観察をすることで、利用者個々の思い等を把握するように努めている。また、面会時等に、家族等から情報を収集し、日々の支援に活かしているほか、利用者支援の中で得た、新たな情報や気づきについては、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や暮らし方、生活環境、性格等を入居者様やご家族様から情報収集し、その方らしく生活できる環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日々の過ごし方や生活リズムを把握し、心身の状態観察を行い、個々の力量等を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様と十分に話し合い、支援方法を関係者と意見交換することで、介護計画を作成している。状態に変化があった場合は、その都度、見直しを行っている。	職員が気づきを意見として、気軽に出せるようにしているほか、定期的にモニタリングを行い、家族からの聞き取りや日々の状況等を介護計画に反映している。ホームでは、利用者の生きがいや自立が最大限に図られるような介護計画の作成に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の申し送りや日中・夜間の記録で情報を共有し、支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診送迎は施設が対応しているが、ご家族様で対応してもらう場合もある。訪問看護を活用して、入居者様の状態観察やコミュニケーションを図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民やボランティア団体等への協力要請等、地域資源を活用している。また、必要に応じて、事業所以外の介護サービスを受けることができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受療状況や受診結果について、ご家族様を含めて医療機関との情報交換や話し合いを行っており、入居者様やご家族様と共有している。	受診状況は詳細に記録し、職員間で共有している。病状等に変化があった際は、家族に電話等で相談や報告をし、情報の共有を図っている。また、介護ロボット（眠りスキャン）によるデータも提供し、医療機関等と情報を共有しながら、身体状況の安定や改善に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や協力医療機関との連携体制を整えている。職員は入居者様の身体状況に応じて、訪問看護へ報告や訪問診察の協力を呼びかけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様やご家族様の意向を確認し、医療機関への情報提供や早期退院に向けて話し合う体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応可能な事や困難な事について、職員間で話し合っている。健康管理や急変時の対応については、入居者様やご家族様、医療機関と話し合い、意向を十分に汲み取り、統一を図っている。	入居時には、ホームでできる事について重要事項説明書で説明し、納得を得た上で押印してもらっている。また、「重度化した場合に係る対応指針」を整備しており、入居の際に説明を行い、承諾のもと同意書に署名・押印をもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急講習を受講して、定期的に訓練を行っている。また、夜間の対応も含めた緊急マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中だけでなく、夜間も想定した訓練を定期的に行っている。また、設備点検も定期的に行い、災害発生時に備えて、食材や物品等を用意している。	2ヶ月に1回、日中・夜間を想定した避難訓練や勉強会を実施している。消防署立ち合いで実施の際は、事前資料を提出しているほか、地域住民の参加もある。また、災害発生時に備えて、食料品の備蓄や毛布等も準備しており、食品については、消費期限等を管理し、無駄のないように努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重して、プライバシーや羞恥心に配慮した対応を行っている。	職員は、利用者を人生の大先輩と意識し、人格や個性を尊重した支援を行っている。居室の清掃の際にも、承諾を得た上で行っており、利用者のプライバシーには十分に配慮しながら、声がけや見守りを大切にしたい支援を心がけ、職員間でも共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定できるように、話しやすい環境づくりを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせた支援ができるよう、ゆとりのあるケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や天候に合わせて、洋服の好みや希望を尊重し、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を取り入れたり、身体状態に合わせた調理方法や食材により、楽しく食事ができるように献立を作成している。	月1回、行事食を取り入れ、季節や旬を感じられるように心がけているほか、利用者に好きな物や食べたい物を聞き取り、メニューに反映している。また、食事の際は会話を楽しみながら、ゆったりとした雰囲気でも過ごせるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握して、入居者様の状態に合わせ、必要量を確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様一人ひとりの習慣に合わせて、入れ歯の洗浄や口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握して、事前に誘導することで失敗を減らし、自立に向けた支援をしている。	利用者個々の排泄パターンを記録し、水分摂取量も考慮した支援を行っており、職員間で情報を共有している。また、可能な限りオムツや尿取りパッドは使用しない方針であり、身体状況より、やむを得ない場合のみ使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を把握して、便秘の原因を探り、自然に排便を促す工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴を楽しめるように声かけやタイミング、時間に配慮して支援をしている。	入浴は週2回、利用者の体調等に留意しながら実施しており、利用者の好みのお風呂剤を使用したり音楽を聞きながら入浴したいという要望にも応えている。入浴をしたがらない方へは足浴を行ったり音楽を流す等の工夫をしている。また、シャワーチェアも導入し、職員の介護による身体的な負担の軽減にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等に配慮して、休息を取り入れている。眠れない時には話を聞いた入り、飲み物を提供する等の対応をしている。また、医療機関とも相談をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬がないような支援体制を整えている。服薬による副作用がないか、常に確認している。また、全職員に服薬内容を周知し、変更があった時は情報を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や希望、嗜好品等を把握し、一人ひとりが力を発揮し、張り合いや喜びを感じられるような環境づくりに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に気を配りながら、季節を感じられるような行事計画を作成し、外出支援をしている。	利用者から希望を聞き、外出先を決定しており、過去の行事も参考にしながら、職員で話し合い、安全な外出支援に取り組んでいる。行事終了後は、ホールに写真を貼って行事報告をしており、面会に来た家族に、利用者の楽しんでいる姿を見てもらっている。また、家族から写真提供の希望があれば、対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の中で自己管理ができる方は、お金を所持している。困難な方には、預り金から支払いを行えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様がご家族様や知人に、電話や手紙を出しやすい環境づくりをしている。また、内容が他者に知られないように、プライバシーへ配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、日当たりが良いため、入居者様に喜ばれている。生活感や季節感を感じられる掲示物や飾り物を用いることで、心地良く過ごせるように工夫している。	ホールには広い天窓があるため、日差しが差し込んで明るく、利用者と一緒に制作した作品を掲示して、利用者が季節を感じる装飾を行っている。また、認知症の方は急な環境の変化が苦手であることを考慮し、家庭的な雰囲気となるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で居心地良く過ごせるように、座席を工夫し、楽しく過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様と相談しながら、好みの物やご家族様の写真等を持って来てもらい、入居者様が居心地良く過ごせるように努めている。	利用者の意向を確認し、馴染みの物等を持って来てもらえるように促しており、居心地の良い居室となるように支援している。居室には行事の写真や賞状を飾る等、職員と一緒に模様替えを行い、個々に合わせた居室づくりを行っている。また、日々、丁寧に清掃（アルコール消毒等）を行うことで、清潔な空間の維持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりのADLに合わせ、できる事や分かる事を活かして、事故のない生活ができるように工夫している。		